

平成29年塩竈市立病院新改革プラン

評価委員会

会 議 録

塩 竈 市 立 病 院

# 平成29年塩竈市立病院新改革プラン評価委員会

日 時 平成29年8月8日（火）18:30～

場 所 塩竈市立病院 3階 会議室

## 次 第

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 審 議

(1) 平成28年度の取組状況について

4. その他

5. 閉 会

【出席者】

《委員（8名）》

本郷道夫（東北大学名誉教授）  
鳥越紘二（宮城県塩釜医師会会長）  
渡辺孝志（宮城県塩釜医師会副会長）  
中嶋満枝（市民代表〈看護師〉）  
南家俊介（公立黒川病院院長代行）  
千葉幸太郎（宮城県保健福祉部医療政策課長）  
鈴木隆博（宮城県塩釜保健所副所長）  
内形繁夫（塩竈市副市長）  
伊藤喜和（塩竈市立病院事業管理者）

《欠席委員（0名）》

《事務局など》

荒井敏明（事務部長兼医事課長）  
鈴木康弘（経営改革室長兼業務課長）  
扇谷剛四（経営改革室長補佐兼業務課長補佐兼総務係長）  
高橋五智美（経営改革室長補佐兼業務課長補佐兼経理係長）  
大場美香（経営改革室主事兼業務課経理係主査）  
庄司晃（医事課医事係長）

《傍聴者》 4名

《報道》 0名

## 1. 開会

○本郷会長（開会あいさつ）

地域医療構想はなかなか先が見通せず、難しい状況にある。その中で、病床機能報告制度や診療報酬の面から、病床機能が地域包括ケア病床に大分誘導されている感がある。次回の診療報酬改定がどのようなになるのか、特に地域包括ケア病棟及び病床に動いている病院にとって、診療報酬改定が病院経営にどのような影響を与えるのか、とても不安が大きい所である。

また、総務省の8月初めの会議では自治体病院の経営がかなり悪化しているという情報があった。つい最近では新潟県の360床の病院が医師不足により200床に減らしたという、とても厳しい話があった。このような状況で、塩竈市立病院が市民の為の病院として、どのような機能を果たしていくべきか、新改革プランの中で皆さんで考えていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

○千葉委員（就任あいさつ）

宮城県医療政策課の千葉でございます。4月から担当させていただいておりますが、県では来年度から6年間の計画で策定する第7次地域医療計画の策定に取り組んでいる。計画の中では、医療圏毎に基準病床を定めており、この病院が属する仙台医療圏は基準病床を既存病床が上回っているため、増床は基本的にできないというエリアになっている。このような基準病床の見直しは国のデータを元に進めるが、塩竈市立病院については、地域医療に対して貢献して頂いているということで感謝申し上げます。今日は改革プランの評価委員会ということで参加させていただきます。県と共に地域医療を担っていただきたいと思いますので、よろしく願ひます。

## 2. 審議

### （1）平成28年度取組状況について

#### ① 医業収益、患者数等の概要

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

説明をいただいたが、患者数を中心に目標に届かなかったものがかなり多かったようだ。何か質問はあるか。

○千葉委員

外来患者数の減少について、外来の循環器内科の診療体制の変更と説明があったが、一時的なものなのか、恒久的なものなのか。

○伊藤委員

循環器内科は東北大学の協力による非常勤医師で対応していた。かなりの患者さんを診てもらっていたが平成28年度は、1年間非常勤医師1名減で隔週の体制になった。平成29年の春より週1回体制に回復している。

○本郷会長

この件はもう回復しているのか。

○伊藤委員

はい。平成29年度については回復している。

○本郷会長

他に質問はないか。なければ2の新改革プラン数値目標の達成状況及び取組状況について、事務局より説明をお願いしたい。

## ② 新改革プラン数値目標の達成状況及び取組状況

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

今年度の取組状況について説明があった。新しい改革プランとして高い目標を掲げている。これについてご質問はあるか。

○中嶋委員

6ページの救急患者の受入件数について、救急患者受け入れ件数が、前年に比べて減少しているが塩釜管内については救急の状況が変化しているのか。一生懸命で、断らない姿勢で頑張っているのだと思うが、目標に届かず減少しているのは、どのような要因があるのか。

○伊藤委員

1, 000件を目標に掲げている。近隣病院で救急センターを立ち上げた。東北医科薬科大学病院も同じように救急に力を入れている。塩釜管内での救急の件数自体は増加している。しかし、特に東北医科薬科大学病院が前年と比べ1, 000件くらい増加していた。当院でも断らない努力はしているが、大病院と比べて救急体制に差がある。努力はしているが目標達成には至らなかった。

○本郷会長

他にないか。脳ドックの件数が少ないながらも目標をかなり超えている。要因はなにかあるのか。

○伊藤委員

利用時に市などの補助が受けられる場合がある。自己負担が少なく利用出来る。補助を利用する利用者が多い。一番多い助成金額の場合は、自己負担が8, 000円くらいですむ。国保や市町村共済利用者が受けられる場合が多い。

○本郷会長

他院からの転入院患者の受け入れ強化という事で、ホームページにて地域包括ケア病棟の空床情報を発信しているようだが、反応はいかがか。

○荒井事務部長

ホームページだけでなく、パンフレットを作成し、近隣の病院にPRを行っている。また、FAXによる情報発信も行っている。一つだけでなく複数の取組によって、効果は少しずつ出ている。こういった取組により、当院に問い合わせの件数に対して、当院に入院される件数がかなり

増えている。平成29年についてはさらなる効果につながっている。

○本郷会長

病院の性格から考えると非常に大切な部分である。他にないか。

○南家委員

採血の開始時間を8時に早めたという取組があるが、患者さんの来院する時間帯に変化があるか。駐車場の広くないという問題があったが、来院時間が分散されることで、駐車場の混雑緩和につながったと思うが、いかがか。

○伊藤委員

駐車場は台数に限りがあり、緩和とまでは至っていない。採血の開始時間を早める取組の本来の目的は、予約時間通りに診療を進めるためである。9時からの診療ですでに検査結果が出ている状況を目指している。駐車場の緩和は副次的なものである。9時には採血結果が出ていることにより、診療を円滑に進める事が出来る。患者さんは以前より早く来院する方も多い。利用者の数はあまり多くないが、患者サービス面では喜ばれている。

○本郷会長

患者さんにとってはよくなったということであろう。他にご意見はよろしいか。なければ次の話題に移る。平成28年度決算見込みについて、事務局より説明をお願いしたい。

### ③ 平成28年度決算見込みの概要

レジメに基づき事務局より説明。

○本郷会長

新改革プランの目標には届かないものの、収支のバランスとしては前年度よりも改善の傾向が見られるという話だが、質問、意見はないか。なかなか厳しい状況ではあるが、一般会計がかなりの多額の支援を行ったようだが、内形委員いかがか。

○内形委員

常々結果がすべてと言っているが、取組をみて、塩竈市立病院は数字以上に市民の為に活躍していると感じる。事務局では様々な取組を進めながら、債務の超過を防ぐ、あるいは健全経営に努めている。市民のためにあろうとする病院であるともっとPRしていく必要がある。いずれにしても塩竈市立病院の自治体病院としての地域医療の灯は消さないという、市長の方針がある。我々も市議会にもお願いしながら、塩竈市立病院が良くなる形で支援したい。塩竈市立病院の数字以上の活躍を市民の皆さんに分かってもらうためには、どうしたら良いのか考えたい。

○本郷会長

はい、中嶋委員いかがか。

○中嶋委員

数字はとても重要である。医師、看護師等とてもよくやっていて、一生懸命であると入院されると実感すると思うが、数字に表れなければ市議会などでも苦しい立場になる。病床利用率が低いのだと思う。病床利用率を上げるには、患者さんや市民の考えは今までと違うのだと思う。今までのやり方を考える時期である。

例えば、電話などで問い合わせをして「このような症状は診てもらえるのか」と問い合わせをしたとする。「ちょっとお待ちください」といったら、「じゃあいいです。違うところにかけて」となってしまう時代である。申し訳ないが、公務員という昔からの体質がある。市民目線の目線というのがどういうところなのか振り返る必要がある。「ちょっとお待ちください」といつて時間を稼いでいたら、「はいどうぞ」とすぐに受け入れてくれる病院にいつてしまう。病床利用率を上げるのは難しいので、まずは受け入れるということだと思う。入院すれば、良さはすぐに伝わると思うが、建物などの外見では伝わらない部分が多い。

今日、来院した時に、とても清掃が行き届いていると感じた。建物は古いが、努力はとても感じる。患者さんも古いが居心地がよい事は分かってもらえると思う。患者を受け入れる姿勢が少し変わると良さは伝わると思う。

○本郷会長

はい、渡辺先生いかがか。



○渡辺委員

収入が減少したのは循環器内科の先生の減少などがあることは分かった。今は回復していることも分かった。非常勤医師の科は軒並み目標に到達していない。たまに来た非常勤医師に目標を達成しろというのは難しいところがある。常勤医師が努力する必要がある。

また、塩竈市立病院のホームページは毎回見ており、塩竈市のホームページも見ている。前よりも見やすくなって非常に良い。しかし、消化器内科を除き軒並み予約制の科が並ぶ。初めての患者さんにとっては敷居の高さを感じる。

少し話がそれるが、塩竈市のホームページは最近変わり、画面を無駄なく使用し、とてもよい。ホームページを見ている人は多いので、取組んでほしい。たくさんの取組を進めているが一つ一つ積み重ねて、努力を続けてほしい。

○本郷会長

はい。鳥越委員。

○鳥越委員

塩竈市立病院の職員、医師、看護師、その他のスタッフ、全て頑張っている事は間違いない。しかし、塩竈市の人口が減少と、東北医科薬科大学病院ができたという二点は大きな要因である。

個々の分野別としては、在宅は伸びているようだが、まだ伸び代がある。もう一つは、循環器内科の医師を早く招聘する必要がある。また、糖尿病を診る先生などを招聘できれば、とてもよいと思う。

○本郷会長

その診療科はひっぱりだこなので、難しい。

○鳥越委員

他の疾病は、ある程度の段階で決着がつくが、その分野はずっと罹患する病気が多い。長く罹患する疾病を診る医師の招聘が必要だと思う。

○渡辺委員

医師の招聘としては、小児科については、塩竈市内で3名の医師のみである。小児科もぜひ招聘を願う。

○本郷会長

小児科もなかなか医師がいない。

○千葉委員

塩竈市立病院は医師、看護師など医療資源には制約がある。県も県立病院を4つ抱えているが、塩竈市立病院は非常に努力していると感じる。病床利用率について、もっと努力をするべきという意見もあるが、一方で、入院患者数の3か年のグラフがある。平成27年度は86.5%。塩竈市立病院と類似病院である全国の自治体病院100床から200床の病院、の病床利用率の平均が65.2%である。県内の自治体病院の中でも3位くらいに入ってくる病床利用率である。100床を超える自治体病院では、大崎市民病院に次いで高い病床利用率を誇っている。非常に努力していると思う。

また、他病院との関わりという話があったが、東北医科薬科大学病院は、救急患者の受け入れを驚異的なスピードで増やしている。平成28年度激減した理由として、東北医科薬科大学病院が2,000件から3,000件に1年間で1,000件増加している。今年に入ってさらに受け入れを増やしている。同じ市内の坂総合病院については、県内トップ10に入る救急患者受入件数で、また、前年に比べてさらに受入を増やしている。他病院も必死で努力している。県から見ると塩竈市立病院も非常に努力していると思うが、さらなる努力を願う。

もう一点として、地域医療構想との兼ね合いとの観点だが、6Pに関連資料があり、地域医療構想を踏まえた役割を示している。地域医療構想では、医療機能を高度急性期、急性期、回復期、慢性期と診療報酬の点数で大きく緊急度の高い順に4区分に分けている。2025年度を目標に、その時必要となる病床数に対して、今の病床数をできるだけ一致するような方向へ全国で議論が始まったところである。

仙台医療圏は他の医療圏からの流入もあるが、急性期は非常に潤沢であり、回復期と慢性期を必要としている。総人口について先ほど減少している話があったが、総人口は減るが、高齢者人口は一定で、急性期よりは回復期、慢性期が必要とされる。塩竈市立病院は先駆けて、回復期や

慢性期医療を行っており、大変ありがたいと思う。

また、在宅医療の話もあったが、在宅医療の促進も大きな課題である。塩竈市立病院は率先して行っており、県内でも自治体病院が率先して行っているところは少ないので、こういった部分でも県としては大変ありがたく、今後もこの努力を続けてほしいのでよろしくお願ひしたい。

#### ○鈴木委員

地域医療の充実のために日々努力頂いていることには大変感謝する。資料を拝見し、具体的な取組にあったが、フェイスブックの開設は新しい取組である。フェイスブックを拝見したが、塩竈市立病院ファンの方の書き込みが多いようだが、病院としての情報発信もぜひお願ひしたい。

#### ○荒井事務部長

フェイスブックはスタート始めたばかりというのが現状である。塩竈市立病院のファンを大切に、情報発信を進めていきたい。また、最近ケーブルテレビのデータ放送での情報発信ができるようになった。近隣住民の皆様にさまざまなチャンネルを使って、塩竈市立病院の良い所をPRし、様々な情報を発信できればと思う。

#### ○本郷委員

いいところも大切だが、塩竈市立病院のためには悪い所も洗い出して、それを直していくということも大切かと思う。南家先生いかがか。

#### ○南家委員

救急については、周辺病院が強い中でよく努力している。病院も競争の時代である。病院過剰な時代で、選ばれるための努力を続けている事が伺える。広報活動に力をいれたり、健康診断を充実させたり、いろいろ頑張っている。とにかく市民の皆様にも一度病院に足を運んでもらう事が取組を進めている改革プランであると感じる。中身を見てもらえば勝負できることが沢山ある。一度、来院してほしいということを意図した部分があると思う。結果が出るのは少し先になるだろう。1年で結果が出るものではないと思われる。この取組を進めて、市民に選ばれる病院であるよう努力を続けてほしい。また、病床利用率についても、160床の病院で驚異的な数字である。非常に努力していると思う。

#### ○伊藤委員

いろいろなご意見を伺ったが、まだまだやるべきことがある。取組は引き続き力をいれる。千葉委員からの話も聞き、高度急性期、急性期、回復期、慢性期とあるが、在宅患者は、一時80件でなかなか増えなかったが、現在は100件を超えて、医師がローテーションで対応している。医師のマンパワー不足があるが、在宅は今後も力を入れる。

病床利用率については、以前は160床を超えて165床や167床が埋まった時期もあった。しかしながら、今はなかなか難しい。151床を目標と掲げている。病床利用率だけでなく、診療単価を上げる取組も必要である。

患者さんを断らず、すぐに診る、という姿勢が大事である。転院患者紹介についても、以前は一度検討し、時間をおいて回答していたが、今は、すぐに確認し、即日返事をする取組を進めている。

救急患者の受入についても以前は1,000件以上あったが、その減少も病床利用率に影響している。大病院のような体制がとれないが、できる範囲で救急患者もすぐに受入れるよう取り組んでいる。

経営としては、4億2千万円の繰入金をもらいながら健全化を進める必要がある。いろいろ事情があって平成28年度は追加の繰入金をいただいたが、平成29年度は追加の繰入金がないよう取組でいきたい。

#### ○本郷会長

周辺の医療機関との競合が激化していることが一番厳しい条件かと思う。病床機能として、地域包括ケア病棟が大分動き出している。地域医療構想に則しているのは、今後の収支改善にかなり寄与すると思われる。

塩竈市立病院の病床利用率が高いというが、もともと199床から160床に削減した中で運営しており、その実績があるから、高い目標を掲げられる。高い病床利用率を維持するベッドコントロールはかなり大変だと思う。最近の患者数の減少をどのように食い止めるのか。人口減という話もあるが、高齢者人口は減少していないので、患者数の減少を食い止めることを考えていきたい。

訪問診療に関して、在宅医療を進めるにあたり、マンパワーの不足の心配をしていた。在宅医療を増やせばよいのは分かっているが、マンパワーの問題がある、できる中でがんばってほしい。

救急患者の受入が減少しているという話があるが、黒川病院よりは受け入れをしている。先ほども話にあったが、診療単価の増加、診療報酬において点数のとれるところがないのか、見直しを進めてもらおうと収支改善につながるのではないか。

○中嶋委員

外来は小児科、耳鼻科等、開設日の拡大は大変ありがたい。今後もよろしく頼みます。

### 3. その他

○本郷会長

他にご意見、ご質問等なければ評価委員会は以上で終了となる。

### 4. 閉会

それでは、委員の皆様には、本日のご議論をもとにいたしまして、塩竈市立病院新改革プランの平成28年度の取組について、評価やご所見を別紙のシートにご記入いただきたい。

皆様、大変お忙しい方々であるが、概ね10日間を目途にして、8月21日（月）まで、事務局にご提出いただきたい。

また、報告書につきましては、私にご一任いただければと考えている。よろしいか。

～全委員了承～

はい、それではよろしく願いいたしたい。

他にご質問なければ本日の評価委員会を終わりたい。

以 上

閉会 午後7時40分